

早期景気観測調査

(8-9月期)

—結果概要報告書—

平成23年10月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的：『街角の景況感』を把握すると共に、県内で最も早い景況調査として
中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成23年9月15日(木) ~30日(金)
4. 調査対象： 当所会員 179事業所
5. 調査方法： 郵送によるアンケート方式
6. 回収数： 133
7. 回収率： 74.3%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果詳細

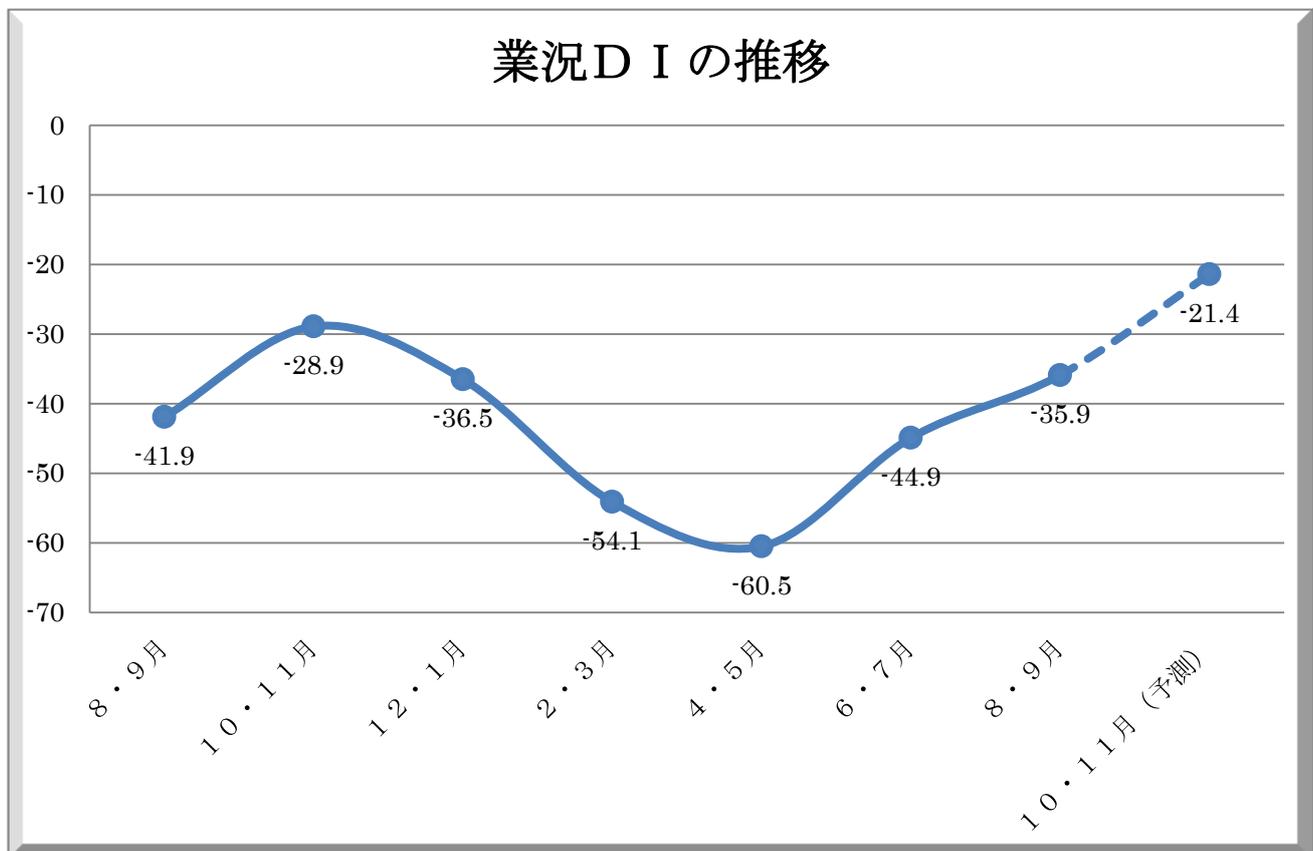
【8－9月の動き】

8－9月の業況DIは9.0ポイントの改善となり、4期ぶりに震災前水準を回復するに至った。今後も引き続き回復基調が続くとみられ、本格的な景気回復への期待が高まる結果と言える。

県内事業所では、風評被害に喘いでいたサービス業（観光）において業況が急速に好転しており、順調な回復を続けている製造業と共に業況を押し上げる要因となった。しかしながら、現下の円高や株安が長引けば、回復力に減速感が出てくる可能性もあるため、引き続き動向を注視する必要がある。なお、建設業では、未だ震災の影響も尾を引き、恒常的に厳しい業況が続いている。

多くの事業所が業況改善に向かっているが、依然として資金調達に課題を抱えていることも事実である。今後とも金融機関の慎重な貸し出し姿勢が続けば、資金繰りに窮する事業所が出てくる可能性も否定できない。さらに、現下の歴史的な円高水準が定着した場合、下請が多い県内製造業の採算が徐々に悪化するのには必至であり、県内産業の空洞化も現実味をおびてこよう。したがって、資金繰りや販路開拓に関する一層の支援が求められる。

【業況DIの推移】



【今回のポイント】

- 業況D I 震災前水準を回復、今後も回復基調が続く見通し
- サービス業（観光）も改善へ
- 引き続き、円高水準に警戒が必要

◆指標の見方

前回D I に比べて（先行は今回実績値に比べて）		
好転	不変	悪化
		

◆ 全業種総合

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

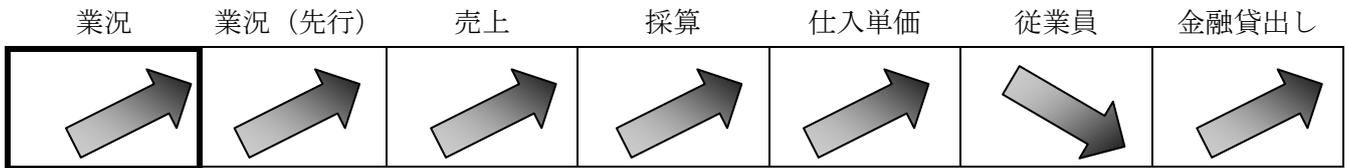
8－9月期の全産業の業況D Iは、**▲35.9**（前期比+9.0ポイント）となり、震災前の水準（12－1月期：**▲36.5**）に回復した。仕入単価・従業員・金融機関の貸出しD Iは小幅に悪化したものの、売上・採算D Iは2期連続で改善した。

先行きに関しては、回復幅の縮小が観測されたものの、今後も製造業・サービス業が牽引する形で回復基調が続くものと思われる。

しかしながら、製造業・食品、卸売業・その他、小売業・事務用品、および小売業・家電は依然厳しい状態が続いており、業種により業況にバラつきが生じている。

◆ 業種別

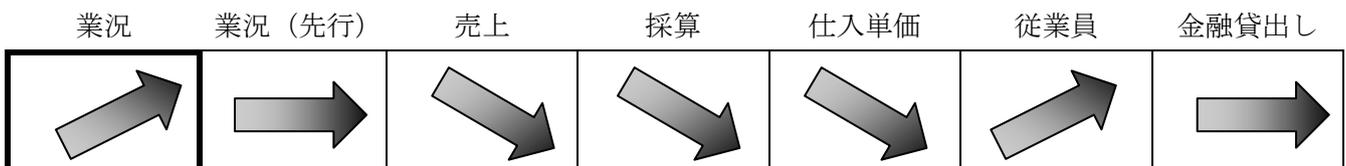
製造業



業況D Iは前期に続き改善している。売上D Iも大幅に改善し、採算・仕入単価および金融機関の貸出しD Iも改善している。一方で、従業員の過剰感はやや拡大している。

業況D Iに関する今後の見通しは、引き続き回復傾向を辿るものと考えられる。ただし、円高が長期化した場合、小規模事業所を中心に徐々に値下げ圧力がかかり、業況が悪化する恐れがある。

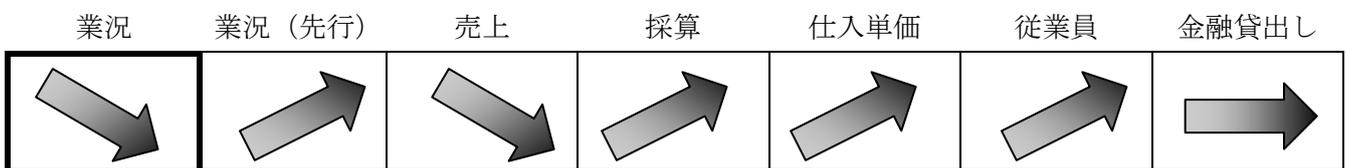
建設業



業況D Iは小幅に改善している。また、従業員に不足感が出始めている。一方で、売上・仕入単価D Iが大幅に悪化しており、採算D Iもやや悪化した。

業況D Iに関する今後の見通しは、不変を予測している。震災復興への予算配分による公共工事の減少や、建築資材の被災地への優先供給に伴う原材料価格の高騰が業況改善の足かせになっているものと考えられる。

卸売業

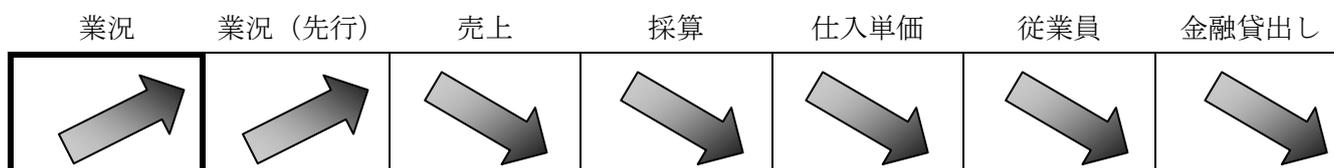


業況D Iは大幅に悪化している。採算・仕入単価D Iは改善したものの、売上D Iが大幅に悪化した。一方で、従業員の過剰感は解消されている。

業況D Iに関する今後の見通しは、大幅な改善を予想しており、震災前の水準を回復する見込みである。

しかしながら、唯一前期の先行D I（今期の業況D I）が大きく外れた業種であるため、今後とも予断を許さない状況と言える。卸の中抜きという構造的な問題に加え、円高・放射能汚染等の業界を取り巻く環境を慎重に見極め、対策を講じていく必要がある。

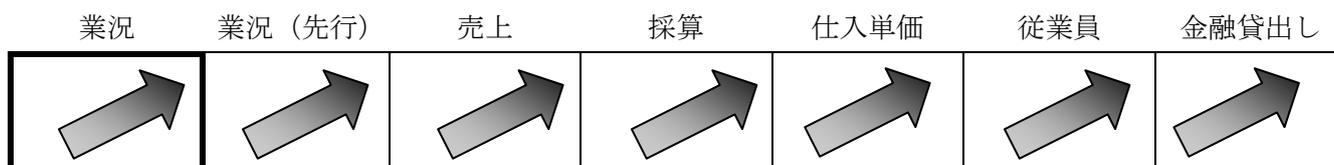
小売業



業況D Iは前期に続き改善している。売上・採算・仕入単価・従業員・金融貸出しD I全てにおいて悪化しており、とりわけ従業員に過剰感が出始めている。

業況D Iに関する今後の見通しは、引き続き回復傾向を辿るものと考えられる。震災に伴う消費者の価値観の変化（節約志向等）の中で消費マインドは順調に回復へと向かっている。

サービス業

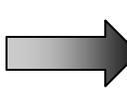


業況D Iは大幅に改善している。売上・採算・仕入単価・従業員・金融貸出しD I全てにおいて改善しており、とりわけ売上D Iは大幅に改善した。

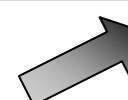
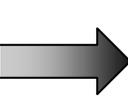
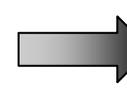
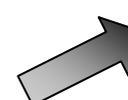
業況D Iに関する今後の見通しについては、引き続き大幅な改善を予想しており、業況D Iがプラスへと限りなく近づくと思われる。しかしながら、飲食関係は客足が鈍く暴力団抗争も依然として収束していないため、今後も厳しい状態が続くものと考えられる。

◆ 業種別詳細

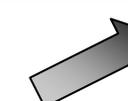
製造業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

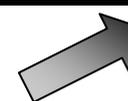
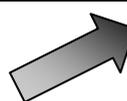
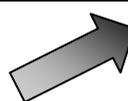
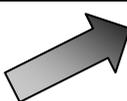
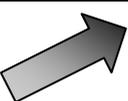
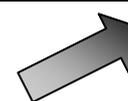
製造業（家具）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

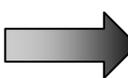
製造業（工業製品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

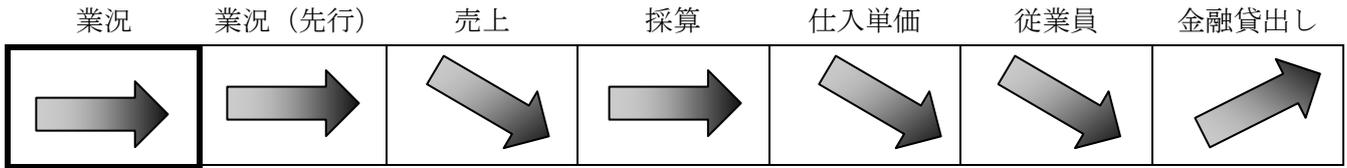
製造業（宝飾）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

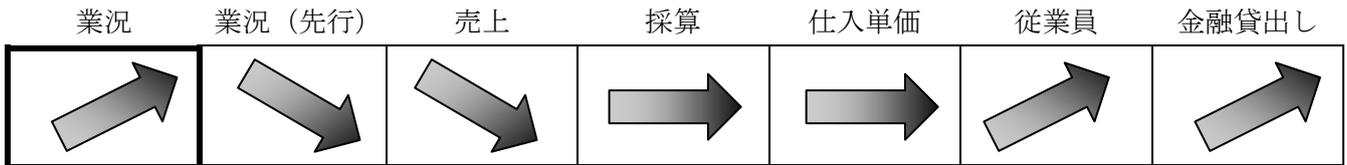
製造業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

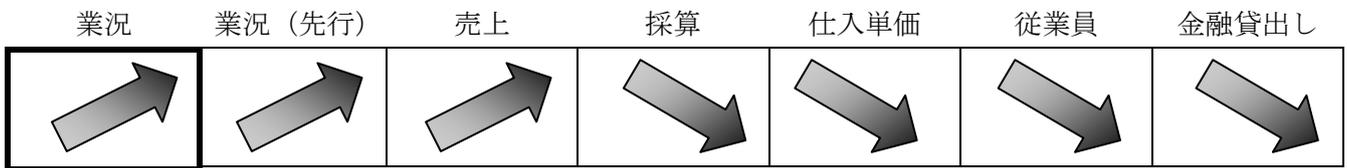
建設業（建築）



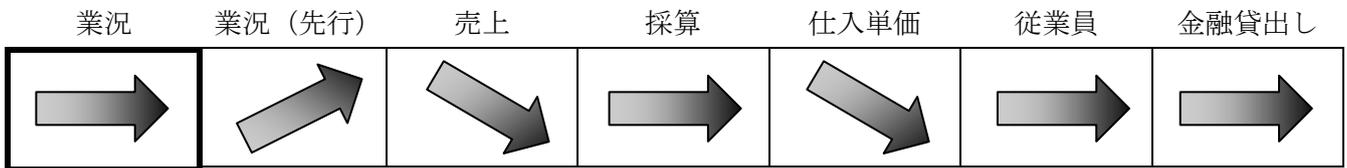
建設業（土木）



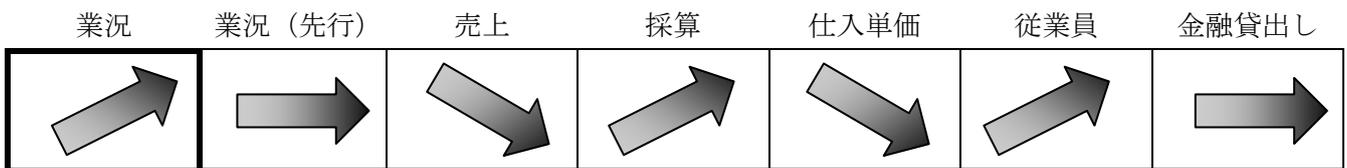
建設業（鉄鋼）



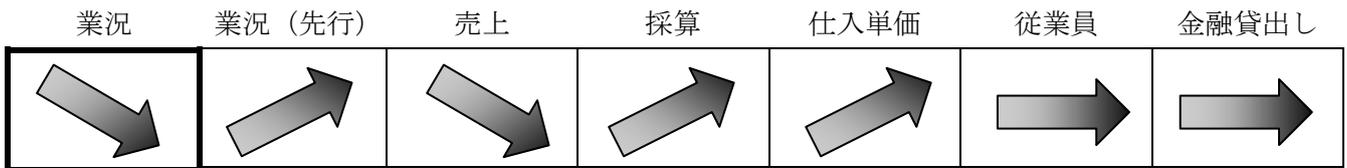
卸売業（食品）



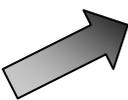
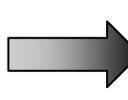
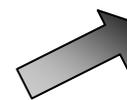
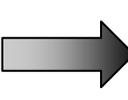
卸売業（繊維）



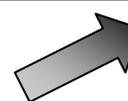
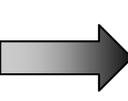
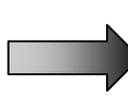
卸売業（その他）



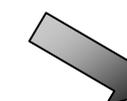
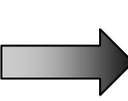
小売業（大型店）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

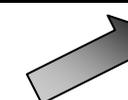
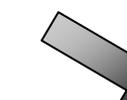
小売業（食料品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

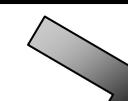
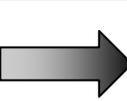
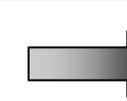
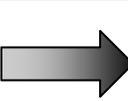
小売業（事務用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

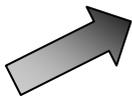
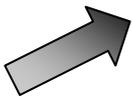
小売業（趣味）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

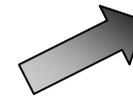
小売業（家電）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

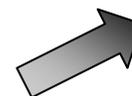
サービス（ホテル・旅館）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（観光）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（飲食）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声

製造業（食品）

- ・円高は続いているが、輸入魚貝類の浜値が高騰しており、円高差益の恩恵には程遠い。国産品を敬遠する風評被害が依然根強く、“頑張れ東北”と言いながら三陸・常磐地域の農水産物の購買状況は鈍い。

製造業（工業製品）

- ・スマートフォン関連を中心に受注数量は好調であるが、価格競争が厳しく、収益性が悪化している。

製造業（宝飾）

- ・ジュエリー業界としては、震災後初めてのクリスマスシーズンを迎える。年々、季節感が薄れ、クリスマス特需がなくなっていく中、今年は何とか前年並みになるように期待もしており、努力もしていきたい。

製造業（繊維）

- ・毎年僅かながら売上が減少している。大手メーカーが直接加工をしているところが増加していることと小型ミシンの進歩により小売店等に出回っていること等に原因があると思う。また、不況によってレジャー関連の仕事が減少していることも追い打ちをかけている。

小売業（大型店）

- ・食品は好調であるが、住関・衣料関係は不振。住関・衣料は7／中旬より低調が続いている。
（天候与件が大きい）。食品については、お客様の安全・安心の意識が更に高まっている感じがする。今後バターの値上げ・野菜類の価格アップ傾向など、購買意欲のダウン与件が多いと思われる。

小売業（食料品）

- ・3. 1 1の震災以前の状況に戻りつつある。（ブライダル業界）。

小売業（趣味）

- ・大震災の影響が未だにある。円高・台風・長雨等で8－9月期は最悪に近い値だったが、10月以降は好転が期待できる。
- ・現状はいたって悪いのだが、恐らくこれ以上の悪材料はないと思うので、しばらくはこのまま推移するのではないだろうか。

小売業（家電）

- ・地デジ転換後、テレビの需要は大幅に減少している。その他の白物も前年より減少している。

サービス業（ホテル）

- ・8－9月の連休は忙しかったが、9月に入ってから連休のみ忙しく、全体的にみて暇な時が多い。

サービス業（観光）

- ・観光業界は、若干良くなっている。特に風評被害（海水浴）の影響で、八ヶ岳方面の入客数が良かった。秋も予約が活発とのこと。インバウンドも戻り始めている。
(・流通業界は、相変わらずスーパーの安売りに歯止めがかからず、ローカルスーパーは激戦。新米の価格も高騰し採算は取れない見込み。)
- ・中央道双葉サービスエリア・レストラン山交では、秋の行楽シーズンに向けて3連休10／9（日）に「第9回甲斐滴音楽会」を開催、10時～14時の間、ジャズ・クラシック・POPSなど様々なジャンルの演奏がお楽しみいただける。

サービス業（飲食）

- ・外食する客が減少している。しかし、ある程度は仕入れなければならず、廃棄処分する品物が多いため経営が大変である。
- ・メーンが「うなぎ」の為、この夏は残暑も含めて暑さが続いていた影響で、例年より良く出て集客にも役立った。しかし、それ以上に仕入価格が高すぎて、採算はむしろ悪化。
(参考・・・2010年仕入単価 2,650円/kg、2011年仕入単価 4,200円/kg)
- ・景気が上向く要素がない。
- ・大震災以降ではあるが、より一層不景気が浸透してきた感がある。

建設業（鉄鋼）

- ・下請け工事の単価が厳しい。
- ・総量は少なく、競争が激しい。低入札物件が多い。
- ・甲府市内では大型工事が多く行われている（NHK・図書館・防災新館・市役所新庁舎など）。しかし、地元の鉄骨工事事業者があまり現場に入っていない。理由は、工事価格があまりにも安いためである。公共の建物で地元の下請け業者に仕事が入ってこないとは・・・。役所と業界との話し合いの場を作ることも必要だと思う。

